

ルーフ型ベンチベットによるシンビジュームの栽培技術

1. 試験のねらい

シンビジュームのベット栽培は、花芽分化初期の施肥コントロールと、平地では夏の高温により、ブラインドが起きやすいことから敬遠されてきた。そこで、ルーフ型ベンチベットによる切り花専用の栽培システムを開発し、その実用性を明らかにした。

2. 試験方法

- (1) 供試材料4号鉢のグレートフラワー・ヴィーナス 30株を1992年8月24日にルーフ型ベットに植え付けた。
- (2) ベットの構造図+1に示したとおりのベットに、水分含有率約60%のクリプトモスを両面で1,500ℓ詰めた。かん水及び施肥は、図のとおり内径13mmで15cm間隔に38ml/minドリップするノズルの付いたチューブをベットの頂辺に二本置いた。また、ロータリーベンチの回りにはシルバーを張り、ヒートポンプにつないだ薫風ダクトを中に通して、冬季は最低18℃・最高23℃に管理し、夏季は外気を通した。
- (3) かん水のサイクルAM5:00~PM0:01の間にON1分OFF59分のインターバルで8回のサイクルで管理した。つまり片面1回当たり950ml、1日当たり7.6ℓかん水した。
- (4) 栽培概要ベット上に15×15cmのネットを張り、図-1のとおり一行一列おきに供試材料を植え付けた。施肥はかん水時にチッソ20%-リンサン20%-カリ20%の液肥を2,000倍に希釈して与えた。リードシュートは、ベットの下方向に出た芽を残し、上方向に出た芽は整理した。
- (5) 調査方法 1993年2月及び1994年10月に図-1のA、B及びCの位置で各層別の水分含有率を調査し、植え付け時と1994年10月に含空気孔隙率を調査して比較した。また、1993年12月から1994年1月にかけて開花状態を調査した。

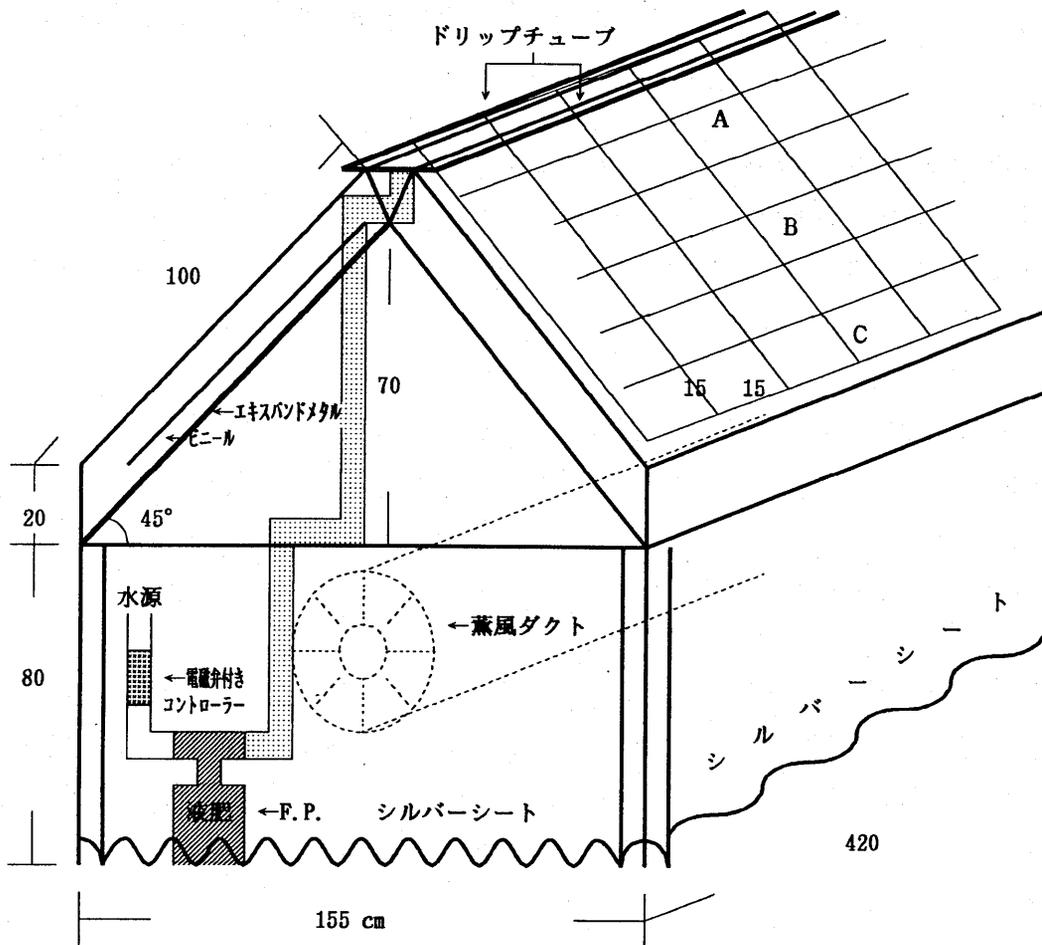
3. 試験結果および考察

- (1) 表+1から、Aの上層の含有水分率は2年後にあまり変化していなかったが、B及びCの上層は乾燥していた。また、2年後のAの中層は、B及びCの中層より約4ポイント低く、下層は位置による差はないが、2年後に10ポイント増加した。さらに、各位置の上層はクリプトモスの微塵が落ちて、含空気孔隙率が植え付け時よりも上がったが、中層及び下層は2~4ポイント減少した。
- (2) 植え付け位置の違いによる多少の生育差はあったが、乾燥によるところが大きいので日射や水分センサーによるかん水量のコントロールを行えば、問題はないと思われる。
- (3) 開花調査の結果、東面と西面の大きな差はなかったが、B及びCに比べAの採花本数は少なかった。切り花長はAがやや短く、B及びCは同程度だが、切り花重、着花輪数及び花の大きさはAがやや優れた(表-2)。

4. 成果の要約

栽培面積は底面積の1.3倍取れるため、栽植本数が増し、限られたスペースで栽培するには極めて効率的である。さらに、夏季はダクトから冷風を流すことで、山上げをしなくても花芽がブラインドを起こさず開花に至るため、ルーフ型ベンチベットによる切り花専用の栽培システムは実用性が高い。

(担当者 花き部 和久井 隆)



図—1 ルーフ型ポットの略図

表—1 位置及び層別の培地の物理性の変化

観樹位置	含有水分率 (%)		含空気孔隙率 (%)	
	観樹5か月後	観樹2年後	植え付け時	観樹2年後
A 上層	39.3	42.6	34.8	49.5
" 中層	67.8	68.7	"	32.5
" 下層	70.3	81.4	"	32.8
B 上層	42.1	26.8	"	46.5
" 中層	68.3	72.3	"	29.5
" 下層	69.3	80.8	"	29.0
C 上層	45.9	16.6	"	45.5
" 中層	68.2	73.4	"	28.0
" 下層	70.5	81.8	"	29.9

上層：表層から5cm
 中層：表層から5~10cm
 下層：表層から10~15cm

表—2 グレートフラワー・ヴィーナスの開花調査

観樹位置	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	着花輪数 (輪)	花の大きさ		1株当たりの採花本数
				縦(cm)	横(cm)	
東面 A	68.0	99.3	9.4	5.5	6.7	1.3
" B	70.1	83.0	8.3	5.2	6.0	1.6
" C	73.3	85.7	7.9	5.3	5.7	1.7
西面 A	68.5	94.4	9.2	5.4	6.2	1.2
" B	72.2	82.2	8.2	5.6	6.2	1.6
" C	71.7	82.5	8.5	5.4	5.9	1.6

頁 数	誤	正								
目次	4) 野菜作 3. ヤマノイモ 5. セル政経苗	3. やまのいも 5. セル成型苗								
7	2. 試験方法 (1) 供試品種 ユサカタ、 ユミヨシ タキイ種苗 ユ、 ユサンド	サカタ、 ミヨシ タキイ種苗、 サンド								
33	[担当者 病虫害防除所]	病虫害防除所								
48	第2表、 第3表 NO_3-N 、 NH_4-N 、 P_2O_5 、 K_2O 第2図～第5図 NO_3-N 、 NH_4-N	NO_3-N 、 NH_4-N 、 P_2O_5 、 K_2O NO_3-N 、 NH_4-N								
51	3. 試験結果及び考察の上の空欄に 右の表を追加	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="border-top: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black;">液肥窒素濃度</th> <th style="border-top: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black;">窒素施肥量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25 ppm</td> <td>1.1 kg/10a</td> </tr> <tr> <td>100</td> <td>4.2</td> </tr> <tr> <td>400</td> <td>16.8</td> </tr> </tbody> </table>	液肥窒素濃度	窒素施肥量	25 ppm	1.1 kg/10a	100	4.2	400	16.8
液肥窒素濃度	窒素施肥量									
25 ppm	1.1 kg/10a									
100	4.2									
400	16.8									
79	タイトル マルハナバチの使用	マルハナバチの利用								
93	(1) 植え込み材料 クリプトモス S _L 及び	クリプトモス S 及び								
95	(2) ベットの構造図 ± 1 3. 試験結果および考察 (1) 表 ± 1	(2) ベットの構造図 - 1 (1) 表 - 1								